

飯盛城跡

続日本
100名城
2017

河内

三好長慶天下を望む 天上の戦国大城郭





飯盛城跡の構造

写真・文：中井均

原図：飯盛城跡縄張測量図 大東市教育委員会 四條畷市教育委員会

大東市

四條畷市

権現川



④堀切Bと土橋
高槽と千畳敷の間には深い堀切Bが設けられ、中央には細い土橋が架けられている。



①堀切A
北方防御の要として構えられた御体塚の北側には巨大な堀切Aを設け、尾根を切断している。



②東側尾根筋の石垣2
曲輪II東側の階段状に構えられた曲輪群の石垣は幾重にも重なり、その姿は圧巻である。

※ご注意
東尾根の石垣群は、登山道がなく危険です。立入らないようお願いします。



③曲輪II下の東側の石垣1
展望台のある曲輪IIの周囲は石垣が築かれており、なかでも東側には多くの石垣が残されている。

飯盛城は標高約314mの飯盛山の山頂に構えられた大阪府下最大の山城である。

その規模は南北約650m、東西約400mを測る。構造は大きく北城と南城に分かれ、北城は曲輪I(高槽)を中心とした、防御施設となっている。南城は曲輪VIII(千畳敷)を中心とした面積の広い曲輪群で、居住空間として利用されていたと考えられる。

飯盛城の特徴は何といっても石垣が用いられている点である。北城のI-IIを中心とした曲輪群と、V(御体塚)を中心とした曲輪群はほぼ全域を石垣によって構えている。自然石をほぼ垂直に積み上げた構造の石垣で、何段にもわたって築かれた姿は圧巻である。これは三好長慶によって大改修されたもので、安土城に先駆けて築かれた石垣として注目される。(中井均)



⑤千畳敷に至る虎口
野崎方面からの登城口となる南丸には、石垣で築かれた虎口が構えられている。

- 登山道
- 曲輪・削平地
- 石垣・岩場
- 切岸・城域
- 空堀(竖堀)・堀切
- 土塁

0 10 50 100

至大東市立青少年野外活動センター



飯盛城跡の赤色立体地図

飯盛城跡赤色立体地図：大東市教育委員会・四條畷市教育委員会(2016)
測量・図化：アジア航測株式会社



■航空レーザー測量と赤色立体地図

従来の航空写真測量は、写真から地形を読み取り等高線を書き入れていたが、山地では樹木に覆われているため、地表面の地形を正確に反映した地形図を作成するには限界があった。

航空レーザー測量は上空からレーザーを照射し、反射してくるレーザーを読み取りデータを取得するもので、レーザーが樹木の隙間を透過して地表面に達するため、地形をそのまま読み取ることができ、赤色立体地図に処理することで、より視覚的に地形を見ることができるといった利点がある。

赤色立体地図では、色の濃淡で傾斜を表現し、赤が薄い所は傾斜が緩やか、濃い所は傾斜が急であることを表している。飯盛城域に見られるほとんどグレーに近い箇所は、曲輪による平坦地を示しており、曲輪の配置がよくわかる。

本来この技術は、土石流や溶岩流などの履歴や現状を把握する等、防災の面で活用されていたものであるが、近年は、樹木に覆われて立ち入りが困難な古墳や範囲が広い山城等の測量にも使用されるようになり、多くの成果が得られている。大東市教育委員会と四條畷市教育委員会では飯盛城跡とその周辺地域の航空レーザー測量を2016年度に実施した。(黒田 淳)



まちのシンボルとして三好長慶像建立

■三好長慶像建立に向けて

永禄3年(1560)、三好長慶は飯盛城に入城した。当時の三好氏は河内や大和を支配下におさめ、その勢力は、西は瀬戸内海、北は日本海に及び、東は伊勢、南は紀伊をもうかがっていた。

この銅像は、当時「天下」と呼ばれた地域を制した戦国武将としての長慶を、甲冑姿で表現する。幕末から明治初期に活躍した歌川芳虎の錦絵「大日本六十余将」に描かれた長慶をもとにして、兜には三好家代々の家紋である三階菱に釘抜を、陣羽織には天皇家に由来する桐の御紋を、新たに付け加えた。

桐の御紋を使用できるのは、足利將軍家と限られた一門だけであった。しかし、永禄4年に長慶にも免許されたことから、後に織田信長や豊臣秀吉もそれを望み、桐の御紋は天下人の象徴となった。

長慶がこの兜と陣羽織で戦いに臨むのは、戦国時代の畿内における最大規模の合戦となった永禄5年の教興寺の戦いの時で、畠山高政との決戦に向け、指揮をとる姿を示している。

(天野 忠幸)

■三好長慶像の製作



●粘土で三好長慶像の原型を造る。



●三好長慶像の原型が完成。



●鋳型造形と寄せ型を作って粘土張り。



●鋳型造形と中子形を作る。



●合わせた型を焼成し注湯。



●鋳型をバラして生地ができる。



●仕上げ作業。



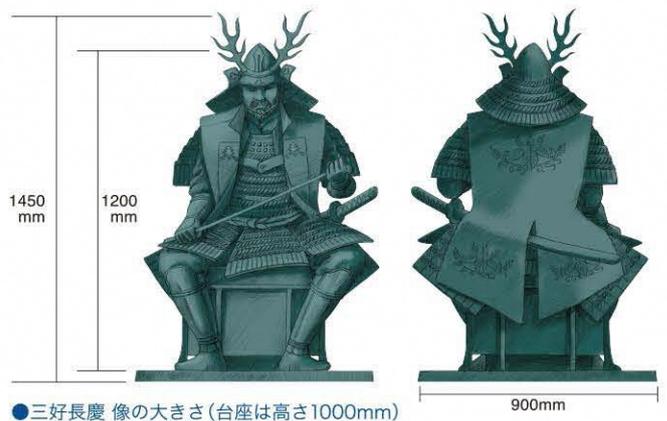
●組み付けして溶接。

■まちづくりの新しいシンボルに

〈天下人〉三好長慶の銅像は大東ロータリークラブの創立50周年事業として制作され、2017年10月に大東市役所玄関前に建立された。長慶の最盛期の凛々しい姿で造形され、長慶の業績を広く市民に周知し、郷土愛を深める契機とするとともに、全国に大東の歴史的価値を発信することを期待されている。

長慶像は天野忠幸氏の監修のもと、彫刻家・奈部雅昭氏が原型を製作。富山県高岡市の竹中銅器において鑄造された。

三好長慶と飯盛城という歴史的資産を活かした大東のまちづくりの新しいシンボルである。(摂河泉地域文化研究所)



●三好長慶 像の大きさ(台座は高さ1000mm)

「河内飯盛城跡 2017」2017年(平成29年)11月26日発行

■監修: 中井均(滋賀県立大学教授 飯盛城跡調査研究専門委員) 中西裕樹(飯盛城跡調査研究専門委員)

■編集: 摂河泉地域文化研究所

■執筆: 中井均 天野忠幸(天理大学准教授) 黒田淳(大東市教育委員会) 村上始(四條畷市教育委員会)

■写真: 中井均 北崎秀和 株式会社竹中銅器

■デザイン・表紙イラスト: 山本ゾンビ(山本書院グラフィックス)

■発行: 摂河泉地域文化研究所

大東市教育委員会 <http://www.city.daito.lg.jp/> 四條畷市教育委員会 <http://www.city.shijonawate.lg.jp/>



ちょうけいくん
©kazuko yamasaki